

発行  
千葉県海匠農業事務所  
改良普及課  
海匠地域農林業振興協議会

千葉県旭市ニの1997-1  
電話 0479-62-0334  
FAX 0479-62-4482

http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-kaisou/



(株)ドロップ代表取締役 三浦綾佳氏の講演



今後の抱負などを発表



女性用の草刈り機を紹介



ワーキングウェアのファッションショー

最後に、参加者16名が今後の農業経営や地域のリーダーとしての抱負などを発表し、盛会のうちに幕を閉じることができました。

農業事務所では、今後もさらに男女共同参画の推進を図り、農業経営改善や地域の活性化に向けた支援を行います。

会場は、東総文化会館には、女性農業者や農業委員を始め約130名の方々が集いました。

今回初めて行ったワーキングウェアのファッションショーでは、日頃実行委員が愛用している作業着や企業が開発したカラフルで快適な作業着のほか、女性向け草刈り機などを紹介しました。

講演では、「農外企業のノウハウを活かした新時代の農業経営」子育てママが働きやすい環境の実現」と題して、(株)ドロップ代表取締役の三浦綾佳氏から同社の就業条件や作業環境整備、さらに特殊なフィルムを用いたアイメック農法によるミニトマト栽培の販売戦略など、新たな感覚の農業経営の話がありました。

農業の就業条件や雇用確保・作業環境を男女に考える  
～海匠地域農山漁村パートナーシップ研修会～

海匠農業事務所では、9月29日に海匠地域の女性団体や女性農業委員等で構成する海匠農山漁村女性団体ネットワークと共催で、研修会を開催しました。

海匠農業事務所改良普及課

指導農業士・農業士紹介

～本年度新たに知事から  
認証された方々です～

平成29年10月24日に千葉市の「プラザ菜の花」において指導農業士4名、農業士3名がめでたく認証されましたのでご紹介いたします。

指導農業士の方



高木幸雄さん  
(旭市)  
葉たばこ

葉たばこ栽培において、県内でもトップクラスの収量・品質を維持している海匠地域で、長年にわたり葉たばこ栽培の維持存続に尽力してきました。



大網健雄さん  
(旭市)  
施設野菜

施設の土耕と水耕で小ねぎを中心に栽培を行っています。経営の法人化も早く、スケールメリットを生かした大規模経営に着手するなど、青年時代から地域農業をリードしてきました。地域の後継者組織育成にも尽力しています。



薄田義統さん  
(旭市)  
施設野菜

キュウリ栽培において、天敵導入や炭酸ガス施用を始めとしたハウス内環境制御などの先進的技術を早くから導入し、品質・収量向上のための技術確立に大きく貢献しています。



伊藤昌美さん  
(匝瑳市)  
施設野菜

赤ピーマンの生産に取り組みとともにオリジナルキャラクターを活用するなど販売活動にも貢献しました。天敵や黄色蛍光灯の導入にも早くから取り組み、IPMでも優れた実績があります。



宮崎泰輔さん  
(銚子市)  
露地野菜

キャベツとダイコンを栽培しています。省力化機械の導入により大規模経営を実践しているほか、土づくりによる連作障害回避と減農薬栽培にも取り組んでいます。



林達也さん  
(旭市)  
露地野菜

ヤマトイモを栽培しています。輪作体系の導入と土づくりに取り組み、品質向上を実現しています。地元の小中学校等との食育活動にも積極的です。



石毛孝一さん  
(旭市)  
露地野菜

キャベツ、スイートコーン、人参等の露地野菜を栽培しており、緑肥を取り入れた輪作体系と余裕を持った作付で、連作障害回避と品質向上を実現しています。

制度情報

○農地の出し手を募集中です

規模を拡大したい担い手に貸し付ける農業振興地域内の農地を探しています。農業からのリタイアを考えている、相続した農地の管理に困っている、水田をやめて畑に専念したいなどで、貸したい農地がある方は、農地のある市役所又は、公益社団法人千葉県園芸協

海匠農業活性化フォーラム

日時 平成30年2月7日(水)  
13時から  
場所 いいおかユートピアセンター  
内容 「儲かる農業への改革! 脱サラ就農で、九条ねぎ年商10億円」(仮)(講師・農業生産法人こと京都株式会社 代表取締役 山田敏之氏)  
事例発表 省力化技術、環境制御技術、GAP導入の3事例を予定  
お問い合わせ先  
海匠農業事務所改良普及課  
0479-62-10334

会(農地中間管理機構(以下、「機構」)に御相談ください。機構が農地の受け手を探します。また、賃料の徴収、支払いは機構が行います。

希望する受け手がいる場合も御相談ください。

地域の農地の一定割合(二割超)を機構に貸す場合や個人が一定の要件を満たす場合、国から貸し付ける面積に応じて協力金の交付が受けられます。

詳細は市役所、海匠農業事務所企画振興課(電話0479-62-0156)または、(公社)千葉県園芸協会農地部(電話043-223-3011)までお気軽にお問い合わせください。

# 旭市の話題

## ○養豚農家、コントラクターと酪農家が連携して牛用自給粗飼料生産にチャレンジ

旭市は県内有数の畜産産地であり、畜産農家の課題として自給粗飼料の活用、家畜ふん堆肥の流通拡大などがあげられます。

そこで、海匠農業事務所では、「養豚農家」が農地を確保して豚ふん堆肥を施用し、その後「コントラクター」が飼料作物の播種から収穫作業を担い、発酵させたサイレージを「酪農家」に供給するといった連携モデルの構築を目指して取り組んでいます。

平成27年度に現地課題調査研究事業において20aの試験展示圃を設置しました。その結果をもとに各組合の会合などで協力者を募り、平成28年度には6圃場で約280a、平成29年度には12圃場で約422aまで取組を拡大することができました。栽培したデントコーンの生育は良好で、平均10a当たり約6tの収穫ができました。

当事務所では、引き続き畜産農家同士が連携をとった自給粗飼料生産の取組について推進していきます。



一面のデントコーンと収穫風景

# 技術情報

## ○スクミリンゴガイ対策

近年、管内全域でスクミリンゴガイ(通称「ジャンボタニシ」)の被害が増えています。

スクミリンゴガイの生態と被害、冬季く移植前の防除対策について説明します。

### 1. 生態と被害

水田の表層の土中や水路などで越冬し、気温が上昇して水田に水が入ると活動を始めます。また、取水の際に用水や水路からも水田に侵入します。

移植後2〜3週間頃までの柔らかい苗を食害し、水深が深いと移植したばかりの苗がほとんど無くなる場合もあります。

### 2. 冬季にできる防除対策

#### (1)ロータリー耕

1月から2月の厳寒期にロータリー耕を行い、越冬中の目を破碎すると同時に寒気にさらします。走行速度を遅くし、ロータリー回転数を上げるのがコツです。耐寒性は高くないので、寒さに当てる

# 銚子市の話題

## ○銚子パイヤ組合が設立

銚子市では、健康野菜の一つとして注目を浴びている青パイヤの生産が増えています。一昨年、1名の生産者の試験的栽培から始まり、昨年は19名が栽培に取り組んで、JAちばみどりでの査定会も開催され、出荷規格を統一した共同販売が始まりました。

そのような中で、産地のさらなる発展を図るため、平成29年3月27日にJAちばみどり宮農センター銚子において、「銚子パイヤ組合」設立総会が開催されました。組合員は銚子市と旭市(旧飯岡町)の生産者28名で、生産者同士の交流による共同出荷の円滑化や一層の有利販売、生産技術の向上、苗や生産資材の共同購入等を目的としています。

最近では、健康志向の高まりから様々な機能性食品が人気です。青パイヤは、美容や健康に良い食品として注目されており、タンパク質分解酵素「パペイン」や抗酸化作用のある「ポリフェノール」、「ビタミンC」などの栄養成分が豊富に含まれています。くせがないのでサラダや炒め物、スープなど料理の幅が広く、今後の消費拡大が期待されています。



青パイヤの樹と果実

# 匝瑳市の話題

## ○ふさこがねコンテストを開催

「第1回千葉ふさこがねコンテストinそうさ」(実行委員長 佐瀬義紀氏)が平成29年10月27日に開催されました。このコンテストは千葉県で育成された「ふさこがね」のさらなる生産意欲向上と消費拡大を目的に、匝瑳市のふさこがね生産者の発案で開催されたものです。匝瑳市を中心に県内から27点の出品があり、一次審査は食味計のデータ等をもとに総合的に評価して7点を選抜、2次審査ではお米マイスター、米穀問屋など総勢22名による食味審査で最優秀賞が決定されました。

見事最優秀賞に輝いたのは、匝瑳市の生産者で、「ふさこがね」にかけた熱い情熱が感じられました。審査員からは、「大粒でふっくらとした炊き上がりで冷めてもおいしい」、「改めて「ふさこがね」の良さを実感した」と好評でした。「ふさこがね」の作付割合は、県全体で約14%のところ、海匠地域では24.6%を占めています。今回のコンテストは、今後の生産と消費の拡大に向けた大きな一歩となりました。



予選通過した7点を慎重に審査



# 制度情報

## ○30年産以降も米の生産調整が必要です!

飼料用米を主とした 米の生産調整

平成30年産以降は、国による「米の生産数量目標」の配分が廃止されますが、米の需要量は減少傾向にあり、需給バランスと価格の安定のためには、引き続き、米の生産調整が必要です。これまでと同様に、飼料用米等による「需要に応じた米生産」に取り組みましよう。

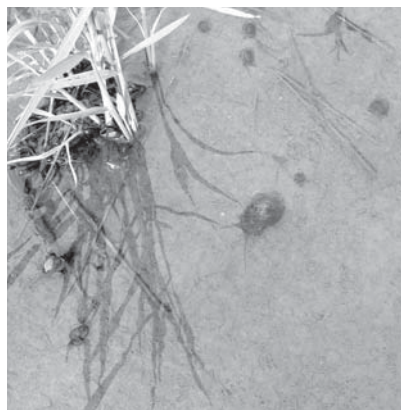
30年産以降は「米の生産数量目標」に代わり、稲作農家には、地域農業再生協議会から「米の生産目安」が示されます。

飼料用米に取り組む際には、国の助成制度が充実しており、主食用米と収穫期のピークを分散できる多収品種をお勧めします。また、ほ場を団地化することにより、作業の効率化を図りましょう。

29年産の海匠地域の状況は、飼料用米773.5ha(うち多収品種576.5ha)、WCS用稲66.9ha(29年9月20日時点)です。

取組の申請や、収入試算等、詳細については、各市農業再生協議会にお問い合わせください。

## ○GAPについて



冬でもジャンボタニシの多い水田

2020年東京オリンピック・パラリンピック大会に向けて、更なる食の安全・安心が求められています。大会では、GAPの取得が食糧調達基準となっており、千葉県でも平成30年2月から国の基準(GAPガイドライン)に準拠した県認証制度である「ちばGAP」の運用を開始します。

GAPとは、Good Agricultural Practiceの頭文字で「農業生産工程管理」と訳します。

具体的には、農業生産の各工程において、計画、実施、記録、点検評価を行うことによる持続的な改善活動で、「食品安全」、「労働安全」、「環境保全」の3つの視点を柱としています。

食品安全では、圃場や出荷施設の衛生管理、農薬の適正使用、出荷物への異物混入防止、出荷容器や水源等の安全性などです。

労働安全では、生産者自身が事故を起こさないような作業方法や作業に適した服装、健康管理、農薬や肥料、燃料等の適正保管などです。

環境保全では、必要以上の施肥をしないような施肥方法や薬剤の飛散防止、廃棄物の適正処理などが挙げられます。

これらの農業生産に係る様々な項目に対し、計画を持って主体的に取り組んでいくことがGAPのスタートです。

GAPの取組は、産地全体に対する信頼性の向上や作業改善によるコスト低減、品質向上等にもつながります。農業者の皆様の取組を期待しています。

GAPについて詳しく知りたい場合は、海匠農業事務所企画振興課(電話0479-62-0156)までお気軽にお問い合わせください。